

南西部地域における路線バスのあり方について

1 現状

南西部地域における公共交通について、J R 山陽本線及び山陽電鉄網干線とバス路線が姫路駅を起点に並走しているため、路線バスの利用が低調な状況にある。これに加え、昨今の燃料価格の高騰や物価高等の影響も重なり、路線の維持が困難な状況となっている。

2 路線バスの状況

- (1) 路線 6 路線 12 系統（令和 8 年 4 月）
- (2) 便数 平日 30.5 往復（令和 8 年 4 月）
- (3) 乗降客数 約 7 万人／年（市内バス利用者の約 0.5%）（令和 7 年度概算）
（参考）南西部の人口 約 103,000 人（市内人口の約 20%）（令和 7 年度末）
- (4) 平均乗車密度 0.9～11.8 人／便（令和 7 年度）

3 今後の方針

南西部地域における路線バスについて、地域内の鉄道駅や商業施設、医療機関等への移動手段として、令和 10 年度を目途に持続可能な公共交通となるよう、鉄道と路線バスの役割や利用状況等を検証しつつ、事業者である神姫バス株式会社とともに見直しを進めていく。

【参考】 南西部地域のバス路線図



（ひめじの鉄道・バスガイドより抜粋）